

教員の資質能力向上に係る特配（コア・ティーチャー特配）活用推進事業 報告書

桐生市立相生小学校

1 研修主題

「メンター研修・OJT研修を核とした教員の資質能力の向上を目指して」

2 研修のねらい

各校でメンター研修やOJT研修を行うことは、様々な教育課題の解決に向けて、効果的・効率的・組織的に取り組んでいくために、ますます重要視されてきている。そうした研修の積み重ねが、学び続ける教員集団を育み、教員の資質能力の向上へとつながり、子どもたちに「たくましく生きる力をはぐくむ」ことができると考える。

このコア・ティーチャーの取組を多くの学校に広めていくには、昨年度実施した様々な内容の精選を図る必要がある。また、校内研修の資質向上研修に位置付けながら計画的に実施し、教員が有用感をもてる研修にしていくことが大切であると考えます。

3 研修の見通し

(1) メンター研修を年間行事予定に位置付けて実施し、初任者や教職経験の浅い教員をメンタリングすることで、相互に学びの共有を図りながら資質能力を高め、人材育成をすることができるであろう。

(2) OJT研修を全職員で実施し、多面的・多角的な学びの機会にすることで、学校で教師を育て、教員と教員をつなげることを通して、学び続ける教員集団にすることができるであろう。

4 研修の内容

(1) メンター研修の実施

メンター研修とは、初任者や教職経験の浅い教員をメンタリングすることを目的としつつ、メンターが相互に人材育成を図るものである。ベテラン層の大量退職に伴い、指導力の低下が懸念される中、今こそ改めてよき同僚性とよき組織風土を高めながら、若手教員の資質能力の向上を図ることの重要性は大きい。

年間のポートフォリオを作成し、基本的には運営委員会と同時刻での実施を年間行事予定表に位置付けることにした。主な研修内容は、技やノウハウといった指導技術や子どもの見方・指導の在り方等、若手教員に必要なことを取り上げたが、若手教員が学びたいことも大切にした。

職場外での研修、校内研修、学校内でのOJT研修とは違った、「若手の、若手による、若手のための研修」になるようコア・ティーチャーはフォロワー役に徹した。

(実施したメンター研修)

実施月	研修内容	主な内容
4月	「年間ポートフォリオの作成」	学びたいこと、学ばなければならないことを決める。
5月	「相生Tシャツのレイアウト検討」	運動会用のTシャツのデザインを考案する。
6月	「校内巡視（教育環境研修）」	諸先生方の教室環境を見て、よさを学ぶ。
7月	「相生Tシャツのレイアウト決定」	運動会用のTシャツのデザインを決め、発注する。
8月	「ワークライフバランス」	仕事と生活のバランスについて話し合う。
9月	「初任者授業検討会①」	初任者の模擬授業と事前授業検討会を行う。
10月	「地域理解研修」	校外に出て、桐生市内の様々な文化を知る。
11月	「通知表の所見の書き方」	通知表のよりよい所見の書き方を検討する。
12月	「服務規律研修」	問題点から課題と対策を話し合う。
1月	「初任者授業検討会②」	初任者の模擬授業と事前授業検討会を行う。
2月	「各種通信の作り方」	各種通信を持ち合い、よさと課題を見出す。
3月	「1年間の振り返り」	1年間の学びの成果と課題をまとめる。



(地域理解研修)



(初任者授業検討会)



(服務規律研修)

(2) OJT研修の実施

教育現場におけるOJTとは、教育の業務全般を行っていく上で、知識やスキルを随時身に付けていくものである。これは、学び続ける教員集団としては必要不可欠なこととして捉え、校内研修だけでは培えない内容を学ぶ機会とした。年間行事予定に負担のない回数を計画し、学期1～2回程度のOJT研修を組み入れていくこととした。

このOJT研修を通して「学校で教員を育てること」と、「教員と教員をつなげること」を念頭に置き、教員の資質能力の向上を目指すというねらいに沿うように、事前に講師との連携を図るよう努めた。さらに、OJT研修を含む本推進事業に係る研究が、校内研修との両輪になるよう、管理職・研修主任との連携を図った。

(実施したOJT研修)

実施月	研修内容	講師
5月	「児童理解と学級経営の充実」	コア・ティーチャー
6月	「食物アレルギーの緊急対応」	校長・養護教諭
7月	「救急法講習会並びに水泳指導にかかわる緊急事態訓練」	消防隊員・校長・養護
8月	「小学校プログラミング教育」	ベネッセICT支援員
10月	「ホワイトボードミーティング」	桐生市立天沼小学校教頭
1月	「インクルーシブ教育研修」「生徒指導・教育相談研修」	特別支援学級担任・特別研修員



(水泳指導にかかわる緊急事態訓練)



(プログラミング教育)



(ホワイトボードミーティング)

(3) CTマニュアルの作成

グローバル化や情報化、少子化や高齢化などの社会の急激な変化や価値観の多様化に伴い、高度化・複雑化した解決すべき教育上の諸課題の対応が必要となってきている。学校教育においても、質の高い教育活動を展開できる教員の資質能力の向上が急務となっている。

そこで、「学校で育てる 職員と職員をつなぐメンター研修」・「組織力を高める 学校の活性化につながるOJT研修」・「参観授業での指導助言での見える化・言える化・聞ける化」を効果的にまとめた「どの学校でも使えるCTマニュアル」を作成した。

(どの学校でも使えるCTマニュアル)

5 成果と課題

○メンター研修を通して、教員として学ばなければならないことや学びたいことの共有化を図ることができた。また、OJT研修を通して、組織の一員であることの自覚や喜びを一層強化することができた。さらに、多面的・多角的な学びの機会を通して、生涯を通じて学び姿勢と教師力・組織力を高める姿勢を身に付けることができた。

●業務改善を進めていく中でも、質の高い教育活動を展開していくために、チームとして校内研修の資質向上研修に位置付けながら計画的に実施し、有用感をもてる研修に取り組んでいきたい。